

令和5年度版 大杉東小学校 国語科 第4学年

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
4	—	四年生で学ぶこと				
4	4 (話す 聞く2)	言葉に親しもう	—			
4	2 (話す 聞く2)	わたしは、だあれ	<p>◇自分の知りたいことを明確にして、質問をする。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞</p>	1・2	<p>○質問し合いながら、自分のカードに書いてある名前をあてるという学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 物の名前をカードに書く。 (1) 物の名前をカードに書く。</p> <p>2. グループでカードを交換する。 (1) カードはグループでまとめて他のグループと交換する。書かれている名前がわからないようにする。</p> <p>3. カードを確かめ、相手に渡す。 (1) カードを1枚もらって2人で組みになる。相手のカードの名前を確かめてから渡す。自分のカードの名前は見ない。相手の名前は知っているが自分の名前は知らないようにする。</p> <p>4. カードに書かれた名前を当てる。 (1) 相手からのヒントを元に質問し合い、自分が何になっているかを当てる。</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉え、自分の考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)</p> <p>【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、学習の見通しをもって、自分のカードに書いてある名前をあてようとしている。</p>

		<p>き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと の中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ⇒◎思 判表A(1)エ</p> <p>◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発 表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	<p>例)</p> <p>A「わたしはこういうものです。」(カードを相手 に見せる)</p> <p>B「ああ、あなたはよく空を飛んでいて、気持ちよ さそうですね。」【ヒント】</p> <p>A「気持ちよさそうに見えますか? どんな季節に よく見かけますか?」【質問】</p> <p>B「秋によく見かけます。めがねも似合っています よ。」【ヒント】</p> <p>A「わたしはとんぼですか?」</p> <p>B「そうです。」</p> <p>○質問やヒントを出し合いながら伝え合うおもしろさ や難しさを振り返る。</p>	
2	春のうた	<p>□◇声に出して読んだり、共通点や相違点に気を つけて話したり聞いたりすることを楽しみ、国語 学習への意欲をもつ。</p> <p>□言葉の響きに気をつけながら、工夫して音読す る。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言 葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す</p>	3	<p>1. 繰り返し音読し、それぞれの「ケルルン クッ ク。」の読み方を話し合う。</p> <p>2. 春を喜ぶかえるの姿を想像しながら、「ケルルン クック。」の読み方を工夫しながら音読する。</p> <p>◎【知技】文章全体の構成や内 容の大体を意識しながら音読し ている。(〔知識及び技能〕 (1)ク)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」にお いて、登場人物の気持ちの変化 や性格、情景について、場面の</p>

		あり	<p>こと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	4	<p>1. 「あり→ありっこないさ」の音の連鎖と繰り返しを楽しみながら音読する。</p> <p>2. 「ありっこないあり」の姿を、頭の中にイメージを描いて音読を楽しむ。</p>	<p>移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ）</p> <p>【態度】進んで、登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。</p>
4	10（書く3）	一 場面の様子や、登場人物の気持ちを想像しながら読もう	□松井さんの行動や気持ちを考えながら読み、松井さんになって、「この日」のできごとを日記に書く。			
		白いぼうし	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒知技(1)ク</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。</p>	1～3	<p>○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>確かめよう</p> <p>1.</p> <p>(1) 初発の感想をノートにまとめて紹介し合う。</p> <p>(2) 全体を4つの場面に分け、それぞれの場面で松井さんが出会った人や、もの・ことをノートなどに整理する。</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、</p>

⇒知技(2)ア

△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知

技(3)オ

■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒

思判表B(1)ウ

■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ

□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒

◎思判表C(1)イ

□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ

□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ

□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ

■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ

□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考え

(3) 場面ごとの松井さんの気持ちを、(2)で整理したものに書き加える。

4・5 **考えよう**

2. 作品の特徴である、においや色を表す言葉を見つけ、その言葉と場面の様子や人物の気持ちとのつながりを考えて話し合う。

6・7 **深めよう**

3. 登場人物の中で、特に気になった人物について考えや感想をもち、話し合う。

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。

(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)

◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)

◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)

【態度】進んで登場人物の気持ちや性格、情景について具体的に想像し、今までの学習を生かして、登場人物になったつもりで日記を書こうとしている。

			<p>たことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表 C (2)イ</p> <p>☆道徳：物語の読みをとおして、相手のことを思いやったり、親切にしたり、真心をもって接することについて考える。</p>	8～10	<p>広げよう</p> <p>4. 松井さんになったつもりで、「この日」のできごとを日記に書く。</p> <p>(1) 今までに学習したことを生かして書く。</p> <p>(2) 書いた日記を友達と読み合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	
4～5	4 (書く 4)	<p>びったりの言葉、見つけよう</p> <p>■心が動いたできごとを、短い文章で表現する。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第3学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表 B (1)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表 B (1)ウ</p>	<p>1</p> <p>○学習の流れを知り，見通しをもつ。</p> <p>決めよう・集めよう（重点）</p> <p>1. 心が動いたことを思い出す。</p> <p>(1) 教科書の文章を読む。</p> <p>(2) 最近のできごとを振り返り，心が動いたできごとを思いっただけ書き出す。</p> <p>(3) 思いついたものの中から，一つを選ぶ。</p> <p>2. その時の心の様子を，「うれしかった」「悲しかった」などの言葉を使わずに言い表す。</p> <p>2・3</p> <p>書こう・読み返そう</p> <p>3. 5, 6文ぐらいの短い文章で書く。</p> <p>○どうして心が動いたのか話し合う。</p> <p>○友達の意見を聞いて，文章を直したり，書き加えたりする。</p>	<p>◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）</p> <p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕 Bア）</p>		

			<p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>			<p>【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、学習の見通しをもって、心が動いたできごとを短い文章で表現しようとしている。</p>
				4	<p>○書きためた文章を読み返し、学習を振り返る。</p> <p>○時間に余裕があれば、友達とお互いの文章を交流することで、心が動いた瞬間についてさまざまな表現の仕方があることを知る。</p>	
5	2	漢字の広場 ①漢字の部首	<p>△漢字の部首について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ△漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p>	1	<p>○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 共通している部分から、何に関係のある漢字かを考える。</p> <p>2. p.30 の下段の設問を解きながら、部首と漢字の意味とのつながり等について話し合う。</p>	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) 【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。
				2	<p>3. p.31 の上段の設問に提示している漢字について、それぞれの部首を考える。</p>	

				4. 巻末の「漢字を学ぼう」を使って、同じ部首の漢字を集める。	
2 (書く2)	漢字の広場 ① 三年生で学んだ漢字 ①	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	3・4	<p>5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。</p> <p>6. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。</p>

					7. 作った文を互いに発表し合う。	
					○学習を振り返る。	
5~6	16 (書く3)	二 けっかとけつろんのつながりをとらえよう				
5	2	ぞうの重さを量る	<p>□象の重さを量るという問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を、叙述をおさえながら読む。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>□段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ⇒思判表C(1)ウ</p>	<p>1</p> <p>1. 大きな重い物の重さをどのようにして量っているのか、想像し話し合う。</p> <p>2. 教材名や挿絵をもとに、象の重さをどのようにして量ったのか、話し合う。</p> <p>2</p> <p>3. 曹沖が象の重さを量った手順の一つ一つについて、なぜそのようにしたのか話し合う。</p> <p>4. 曹沖が難しい問題をどのようにして解決したのか、考えの筋道にふれながら説明する。</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力</p>	

			<p>□記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>			<p>等] Cア)</p> <p>【態度】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、考える筋道をつかもうとしている。</p>
5~6	10 (書く 3)	花を見つける手がかり	<p>□「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を解明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論、実験を繰り返していく考えの筋道などを、叙述をおさえながら読む。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め</p>	3	<p>確かめよう</p> <p>1. 段落分けや「始め・中・終わり」の構成を確かめ、初読の感想をまとめる。</p> <p>4・5</p> <p>2. 文章の冒頭部分を読み、実験の筋道をたどる。</p> <p>(1) もんしろちょうについて知っていることを話し合う。</p> <p>(2) 文章で明らかにしようとしている問題と予想される答えを、題名と第1・2段落をもとに話し合う。</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p>

方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方
方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ
△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報
を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技
(3)オ
■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段
落をつくったり、段落相互の関係に注意したりし
て、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ
■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係
を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思
判表B(1)ウ
□段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支
える理由や事例との関係などについて、叙述を基に
捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア
□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要
約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ
□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考
えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ
□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、
一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く
こと。 ⇒思判表C(1)カ
■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれ
を基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア
□記録や報告などの文章を読み、分かったことや考
えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を
述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア

6~9

考えよう

3. 問題と実験からわかった事実、そこから筆者が導き
出した結論との関係に気をつけて文章を読む。

(1) 三つの実験について、それぞれ、「使ったもの」
「そのとくちょう」「実験のけっか」「けつろん」に分
けて表にまとめる。

(2) 第14段落で予想される反論を取り上げている意
味を考えて、話し合う。

(3) 第5・6段落に着目し、日高先生たちが持っている
た「もう一つの疑問」について話し合う。

10・11 深めよう

4. 実験の進め方や結論の出し方について話し合う。

(1) 三つの実験を比べて、考えの進め方の特徴をと
らえる。

【思判表】「書くこと」において、
自分の考えとそれを支える理由
や事例との関係を明確にして、
書き表し方を工夫している。
(〔思考力、判断力、表現力等〕
Bウ)

◎【思判表】「読むこと」におい
て、段落相互の関係に着目しな
がら、考えとそれを支える理由
や事例との関係などについて、
叙述を基に捉えている。(〔思考
力、判断力、表現力等〕Cア)

◎【思判表】「読むこと」におい
て、目的を意識して、中心となる
語や文を見付けて要約してい
る。(〔思考力、判断力、表現力
等〕Cウ)

【態度】粘り強く、考えとそれを
支える理由や事例との関係など
について叙述を基に捉え、学習
の見通しをもって、結果と結論
のつながりを捉えようとしてい
る。

				12	<p>広げよう</p> <p>5. 児童が筆者とともに問題を追究しているような、文章のおもしろさについて考える。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	
6	4	分類をもとに本を見つけよう	<p>△地域の図書館へ行き、「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりする。△「日本十進分類法」のしくみを知り、本を探すときに役立てる。△「日本十進分類法」のしくみを知り、分類記号を手がかりに本を探して読む。△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ□記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア□学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ☆社会、理科、総合：調べ学習で本を探す</p>	13・14	<p>○分類記号を手がかりに本を探するという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。1. 図書館の本の分類の仕方を知る。(1)身のまわりで、分類されているもの考える。(2)図書館に行き、本が内容ごとに分類されていることを確かめる。</p> <p>(3)「日本十進分類法」のしくみを知る。</p> <p>(4)ラベルの記号について知る。</p>	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア)◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ)◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(【知識及び技能】(3)オ)◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ)【態度】進んで比較や分類の仕方を理解し、学習の見通しをもって、分類記号を手がかりに本を探して読もうとしている。
				15	2. 分類記号を手がかりに本を探す。	
				16	3. 分類記号を手がかりに、自分が読みたい本を探して読む。	

6	3 (話す 聞く3)	メモの取り方をくふうして 聞こう	<p>◇相手の話の大切なことを落とさないように、工夫してメモを取りながら話を聞く。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p>	1	<p>○校長先生や図書ボランティアの話聞き、聞き取りメモを作成するという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <p>話そう・聞こう(重点)</p> <p>1. メモを取りながら、お話を聞く。</p> <p>(1) 教科書を開かずに、p.50・51のお話を聞きメモを取る。</p> <p>2. 聞いた内容について、メモをもとに友達と話し合う。</p> <p>(1) メモを見せ合いながら内容を確認する。メモの取り方を交流する。</p> <p>3. 自分の考えを伝える。</p> <p>(1) 自分が作るとしたらどんな言葉を選ぶかを考え、発表し合う。</p> <p>2・3 4. メモを取りながらお話を聞く。</p> <p>(1) p.52を教師に読んでもらい、実際にメモを取って友達と比べる。</p> <p>(2) メモの取り方を確認する。</p> <p>(3) 互いにメモを取りながらインタビューし合う。</p> <p>5. 聞いたことをまとめる。</p> <p>(1) 聞いたことをメモをもとに発表し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)</p> <p>【態度】進んで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、大切なことを落とさないように聞こうとしている。</p>
---	------------------	---------------------	---	---	---	--

6	2	漢字辞典の引き方	<p>△漢字辞典の引き方を理解し、活用する。△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ△漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒知技(3)ウ</p>	<p>1 ○学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 教材文を読んで、漢字辞典の引き方を理解する。</p> <p>2. 手がかりによって、どの索引を活用すればよいかを理解する。</p> <p>2 3. 設問に従って、部首索引・音訓索引・総画索引を活用して漢字を調べる。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。</p>
6	10(書く10)	三 伝わりやすい組み立てを考えて書こう	<p>■リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え、見学したことや調べたことを報告する。</p>		
		リーフレットで知らせよう	<p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに</p>	<p>1 ○「学習の進め方」を読み、何を誰に報告するかを考え、学習活動の見通しをもつ。</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行</p>

に、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ

△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ

△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ

△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。
⇒知技(2)ア

△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ

■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア

■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ

■自分の考えとそれを支える理由や事例との關係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ

■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現

2・3

決めよう・集めよう

1. 課題を見つけ、伝えたいことを決める。

(1) 自分が調べたい課題を見つける。

(2) 見学してきたことをもとに、伝えたいことを決める。

4～6

組み立てよう(重点)

2. リーフレットの組み立てを考える。

(1) メモの中から取り上げたい項目を洗い出す。

(2) 伝えたいことが明確になるような構成・配置を考える。

(3) グラフや図、写真などを整理したり、それぞれの項目と関連づけたりする。

の仕方を理解して文や文章の中で使っていると同時に、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)

◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)

◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との關係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)

◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)

【態度】積極的に、書く内容の

			<p>になっているか確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆社会科：社会科見学との関連を図ることができる。</p>	<p>7～9 書こう・読み返そう（重点）</p> <p>3. リーフレットを作り、読み返す。</p> <p>10 伝え合おう</p> <p>4. 読み合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。</p>
6～7	4 (書く 1)	短歌の世界	<p>△短歌を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。</p> <p>△易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱し</p>	<p>1</p> <p>○p. 64・65を読んで、学習のめあてをつかむ。</p> <p>1. 短歌の特徴を知る。</p>	<p>◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識</p>

			<p>たりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切にす る。</p> <p>☆図書館活用：短歌への関心を広げる。</p>	<p>2・3</p> <p>2. 解説を読みながら、それぞれの短歌の描き出す情景や心情を想像して音読する。</p> <p>4</p> <p>3. 好きな短歌を選んで、書き写したり、感想を書いたりする。</p>	<p>及び技能] (3)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にし、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】進んで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって、言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。</p>
7	2	漢字の広場 ②漢字の音を表す部分	<p>△形声文字における部首と音符について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこ</p>	<p>1</p> <p>○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 「寺・時」「板・飯・坂」に共通している部分がそれぞれ何を表しているか考える。</p> <p>2. 例示する漢字の部首と音を表す部分が、それぞれ、「へん」や「つくり」など構成要素のどの位置にあるかを確かめ、話し合う。</p>	<p>◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) 【態度】進んで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習課題に沿って、「音を表す部分」を漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。</p>

		と。 ⇒知技(2)イ△漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ	2	3. p.71 の上段の設問を解き、音を表す部分への関心を深める。 4. 漢字辞典の音訓索引を使い、音を表す部分を共通にもつ漢字の仲間を探し、ノートにまとめ、発表し合う。 5. 音を表す部分の中には、文字によって音が違うものがあることを知る。	
2 (書く2)	漢字の広場 ② 三年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。

			<p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>		<p>8. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	
7	10 (話す聞く 2)	四 登場人物のせいにかくや、気持ちを想像して読もう	□場面や人物の様子を想像しながら、落語を音読したり、演じたりする。			
7		ぞろぞろ (落語)	<p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p>	1・2	<p>○単元とびらを読んで、学習の見直しをもつ。</p> <p>確かめよう</p> <p>1. 初読の感想をまとめる。</p> <p>(1) 落語の特徴の一つである「繰り返し」に着目して全体を見渡す。</p> <p>(2) 場面の様子や登場人物のやりとりを想像して読み、落語のおもしろさを実感する。</p>	<p>◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。</p> <p>(〔知識及び技能〕(1)イ)</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や</p>

			<p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒ 知技(3)オ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒ 思判表A(1)ウ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒ ◎思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒ ◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒ 思判表C(1)オ</p> <p>◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒ 思判表A(2)ア</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒ 思判表C(2)イ</p>	<p>3～5</p> <p>6～8</p> <p>9・10</p>	<p>考えよう</p> <p>2. 会話から、場面の様子や登場人物のやりとりを想像して読む。</p> <p>(1) 茶店のおじいさんの「ご利益」に対する考え方が、落語のはじめと終わりまでどのように変わったかを考える。</p> <p>(2) 茶店のじいさんのせりふと、とこ屋の親方のせりふを手がかりに、二人はそれぞれどのような人柄だと思うか、感じたことを話し合う。</p> <p>深めよう</p> <p>3.</p> <p>(1) 場面の展開をもとに、落語がいちばん盛り上がるころを考えて、音読したり演じたりするときに生かす。</p> <p>(2) p. 89の音読記号などを使いながら、工夫して音読する。</p> <p>広げよう</p> <p>4. 好きな場面を選んで、音読したり、落語のように演じたりする。</p> <p>(1) 教科書 p. 89の音読記号や、読むときの気持ちを書き込んだ音読台本などを作って演じる。</p> <p>(2) 音読を聞き合い、友達が工夫しているところなどを見つけて感想を話し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>【態度】進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって、落語を音読したり演じたりしようとしている。</p>
--	--	--	--	-----------------------------------	---	---

9	1 (話す 聞く1)	「夏の思い出」記者になろう	<p>◇話し手がどんなことを伝えたいのかを考えながら、質問をする。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	1	<p>○夏休みの思い出を友達から聞き出す活動をおして、インタビューの仕方や聞くことの方法について学ぶという学習の見通しをもつ。</p> <p>話そう・聞こう(重点)</p> <p>1. グループでインタビューをする。</p> <p>(1) 4～5人のグループに分かれ、「記者会見の場」を設定して、一人がインタビューを受ける人、残りがインタビュアーの役になって、インタビューを行う。</p> <p>①インタビューを行う(5分間)。</p> <p>インタビューの際のルール</p> <p>*同じ質問はできない。</p> <p>*答えにくいことには「ノーコメント」と言う。</p> <p>②うまく尋ねられたこと、もっと尋ね方を変えたほうがよいところ、うまくできなかったところなどを出し合い、改善の方法を話し合う(5分間)。</p> <p>③役割を交代してもう一度インタビューを行う(5分間)。</p> <p>④尋ね方がよくなったところ、まだまだなところを確かめ、改善の方法について話し合う(5分間)。</p> <p>(2) 相手に詳しく聞くことを目的に、役を交代してさらにインタビューを行う。</p> <p>(3) インタビューの仕方、話し方の工夫点などについて確かめ合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p> <p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)</p> <p>【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、相手の話を引き出す質問をしようとしている。</p>
---	------------------	---------------	--	---	---

◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思
判表A(1)ウ

◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと
の中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判
表A(1)エ

◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果た
しながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点
に着目して、考えをまとめること。 ⇒思判表A
(1)オ

◇説明や報告など調べたことを話したり、それら
を聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア

☆特別活動（朝の会など）：メモをもとにスピー
チをする。

4・5 話そう・聞こう

3. 発表する。

(3) メモをもとに写真を見せながら発表する。

・教科書の写真を使って発表するだけでなく、自分の写
した写真や、探してきた写真をもとにして話す活動も
取り入れる。

・写真を決める。

・写真から読み取ったことをメモにまとめる。

・メモをもとに話す構成を考える。

・発表し合う。

6 伝え合おう

4. 感想を伝え合う。

(1) 自分や友達の発表を振り返る。

・写真のどの部分からそう考えたのか、相手にわかるよ
うに発表することができたか、人によっていろいろな
見方や考え方があったかどうか確かめる。

・話すときの観点や聞くときの観点到気をつけて確か
める。

○学習を振り返る。

等] Aイ)

◎【思判表】「話すこと・聞く
こと」において、話の中心や話
す場面を意識して、言葉の抑揚
や強弱、間の取り方などを工夫
している。（〔思考力、判断
力、表現力等] Aウ）

【態度】粘り強く、理由や事例
などを挙げながら話の中心が明
確になるように構成を考え、学
習の見通しをもって、写真から
読み取ったことを話そうとして
いる。

9	5 (書く 5)	新聞を作ろう	<p>■割り付けを工夫して、わかりやすい紙面の新聞を作る。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p>	<p>1 ○新聞の作り方を読んで作り方の流れを知り、学習の見通しをもつ。 (1) 教科書の新聞例から、どんな工夫をしているか話し合う。 (2) 教科書の新聞の作り方を読んで、活動の流れを確認する。</p> <p>2 決めよう・集めよう 1. 知らせたいことを決め、調べる。 ○記事を書くために取材をする。</p> <p>3 組み立てよう 2. 記事の割り付けを考える。</p> <p>4 書こう・読み返そう (重点) 3. 記事を下書きし、読み返して清書する。</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)</p> <p>【態度】粘り強く間違いを直し</p>
---	----------------	--------	---	---	---

			<p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>5 伝え合おう</p> <p>4. 新聞を読み合う。</p> <p>○友達からの意見をもとに、自分たちの新聞を読み返す。</p>	<p>たり文章を整えたりし、学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。</p>
9	2	漢字の広場 ③ 送りがなのつけ方	<p>△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p>	<p>1</p> <p>○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 言い方によって形が変わる言葉の送り仮名を考える。</p> <p>2. 送り仮名に着目し、常体を敬体に変えてみて、話し合う。</p> <p>3. 例文を常体と敬体、肯定と否定、現在形と過去形などにそれぞれ書きかえ、送り仮名を確認する。</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>【態度】進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字を正しく使おうとしている。</p>

				2	<p>4. 動詞として使われる漢字のうち、訓読みが複数あるものを取り上げて、送り仮名によって読み方と意味を使い分けることについて習熟を図る。</p> <p>5. 動詞として使われる漢字を集め、活用によって送り仮名がどう変わるかを調べ、発表する。</p>	
1 (書く1)	都道府県名に用いる漢字	<p>△都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	3	<p>6. 都道府県名に用いる漢字について学ぶ。</p> <p>7. 都道府県名を使って文を作り、発表し合う。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、都道府県名を覚えたり書いたりしようとしている。</p>	

	2 (書く2)	漢字の広場 ③ 三年生で学んだ漢字 ③	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。</p> <p>⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	4・5	<p>8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。</p> <p>9. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。</p> <p>10. 表現を改めたり、書きまちがいなどを正したりして、書いた文を発表し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。</p>
9～10	9(書く2)	六 場面の様子をくらべて読み、感想をまとめよう	□登場人物の思いを想像しながら、二つの場面を比べて読み、読んだ感想を友達に伝える。			

	<p>一つの花</p>	<p>△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。</p> <p>⇒◎知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの</p>	<p>1 ○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。</p> <p>確かめよう</p> <p>1. 初読の感想をまとめる。</p> <p>(1) 登場人物や，作品で描かれている時代設定などを確かめる。また，その中でどのようなできごとが起こっていたのか，場面の様子を大きく捉え，作品の全体像を把握する。</p> <p>(2) 戦争中の場面について，お父さんとお母さんの，ゆみ子に対する思いの違いを考えて話し合う。</p> <p>2～5 考えよう</p> <p>2. 戦争中と十年後の場面を比べながら，ゆみ子の様子と，お父さんとお母さんの思いを読む。</p> <p>・それぞれの場面の内容についてノートにまとめる。その時の，お父さんやお母さんの願いや気持ちも想像する。</p> <p>6・7 深めよう</p> <p>3. 題名の「一つの花」と，文章の中の「一つだけのお花」や「コスモスのトンネル」という言葉が，どのようなことを表しているか考え，話し合う。</p>	<p>◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。</p> <p>(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。(〔思考力，判断力，表現力等〕Bア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化</p>
--	-------------	--	--	--

			<p>変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒ 思判表C(1)イ</p> <p><input type="checkbox"/>登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p><input type="checkbox"/>文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p><input type="checkbox"/>文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p><input type="checkbox"/>詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：物語の読みをとおして、生きることを喜び、生命を大切にすることを大切にする心をもつことについての考え方を深める。</p>	8・9	<p>広げよう</p> <p>4. 心に残った場面やできごとをはっきりさせ、この物語の感想文を書き、友達に伝える。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ）</p> <p>【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、心に残った場面をもとに感想文を書こうとしている。</p>
10	2 (書く 2)	いろいろな手紙を書こう	<p>■手紙の書き方を知り、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年に</p>	1	<p>○教材の学習の進め方を理解して見通しをもち、手紙を書くことに興味をもつ。</p> <p>1. p.122の山口さんの手紙を読んで、依頼の手紙の書き方や書くときの工夫について考える。</p>	<p>◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（〔知識及び技能〕(1)キ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっている</p>

			<p>おいては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒◎知技(1)キ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p>	<p>2. 誰にどのようなお願いをするのかを考えながら、手紙に書く事柄を決める。</p> <p>2 3. 構成を考えながら依頼の手紙の文章を書いたり、まがいがいないか読み直したりする。</p> <p>4. 案内の葉書や電子メールの書き方を知り、相手や目的に応じた手紙を書く。</p> <p>5. 案内の葉書の書式を理解し、手紙のよさについて話し合う。</p>	<p>かを確認したりして、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ）</p> <p>【態度】粘り強く間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認し、学習の見直しをもって、送る相手や伝える目的に合わせた手紙を書こうとしている。</p>
10	2	修飾語	<p>△文の中での修飾語のはたらきを理解する。</p> <p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、</p>	<p>1 ○冒頭の会話文を通して、修飾語のはたらきの違いに気づく。</p> <p>1. 教材文を読み、修飾語とは何か、どのような働きの言葉かを理解する。</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>【態度】進んで修飾と被修飾と</p>

			指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ	2	2. 設問に取り組み、修飾語を見つけたり、修飾語の種類を見分けたりする。 ○学習を振り返る。	の関係について理解し、学習の見通しをもって、修飾語を見つけたり、修飾語の種類を見分けたりしようとしている。
10	6 (書く 6)	七 自由に想像を広げて書く こう	■不思議な言葉を作り、想像を広げて「ショートショート」を書く。			
		「ショートショート」を書く	△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したり	1	○教科書を読んで活動の流れを知り、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう(重点) 1. 不思議な言葉を作り、想像を広げる。 (1) いろいろなものの名前などを十個探して書く。 (2) 言葉の一つを選び、その言葉から思いつくことを自由に書く。 (3) 言葉を組み合わせて、不思議な言葉を作る。 (4) 不思議な言葉から想像を広げる。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に、相手や目的

			<p>して、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>2・3 組み立てよう</p> <p>2. 設定や物語の展開を考える。</p> <p>4・5 書こう・読み返そう</p> <p>3. 想像を広げながら、「ショートショート」を書く。</p> <p>6 伝え合おう</p> <p>4. 友達と読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○物語作りの学習を振り返る。</p>	<p>を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって「ショートショート」を書こうとしている。</p>
--	--	--	---	---	--

10	1 (書く 1)	「月」のつく言葉	<p>△昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことを知り、「月」に関係する言葉を集める。</p> <p>△比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>△易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア</p> <p>■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	1	<p>1. 教材文を読み，「月」の呼称について知る。</p> <p>2. 教材文末の言葉について国語辞典などを調べたり，さらに「月」に関わるさまざまな言葉や表現を調べてノートに書き，友達と交流する。</p>	<p>◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。 (〔思考力，判断力，表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】進んで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ，学習の見通しをもって「月」に関係する言葉を集めようとしている。</p>
----	----------------	----------	--	---	---	--

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
10	—	四年生で学ぶこと				

10	8 (書く2)	一 場面のうつりかわりと結びつけ、登場人物の変化を読もう	□人物の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み、読書の世界を豊かにする。			
		<p>ごんぎつね</p>	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこ</p>	<p>1~3</p> <p>4・5</p>	<p>○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>確かめよう</p> <p>1. 登場人物を確認し、作品の全体像をとらえる。</p> <p>(1) 登場人物を確認し、それがどのように紹介されているか確かめる。</p> <p>(2) ごんの気持ちがわかる表現を場面ごとに見つけ出し、気持ちの変化について考えを話し合う。</p> <p>考えよう</p> <p>2. ごんと兵十の心の動きを読む。</p> <p>(1) ごんに対する兵十の気持ちの変化を読む。</p> <p>(2) ごんと兵十の関係の変化を読む。</p> <p>深めよう</p> <p>3. 償いを始めるきっかけとなったごんの想像の理由を考える。</p> <p>*兵十の人物紹介の場面の叙述が、実は、ごんの想像の理由にもなっていたことを読み取る。</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。</p> <p>(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p>

			<p>と。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：物語の読みをとおして、生命の尊さを感じ取り、生命あるものについての見方を深める。</p>	<p>6</p> <p>7・8</p>	<p>4. ごとんと兵十の心のつながりについて、思ったことをノートにまとめる。</p> <p>* ごとんと兵十の心のすれ違いやつながりについて考えを書く。</p> <p>* 書いたものを紹介し合い、場面の移り変わりと人物の心情の変化について考えを整理する。</p> <p>広げよう</p> <p>5. この物語のおもしろいところや工夫されているところをお薦めする「せんでんポスター」を書く。</p> <p>(1) 物語の内容をもとに、ポスターの題名を考える。</p> <p>(2) できあがったポスターを読み合う。</p> <p>○場面の移り変わりや、登場人物の気持ちの変化をとらえることができたかを、ノートなどを見直しながら振り返る。</p> <p>○『ごんぎつね』をお薦めするポスターに、自分の考えた題名をつけ、それに対する説明を書くことができたか振り返る。</p>	<p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>【態度】積極的に、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって物語のポスターを作ろうとしている。</p>
--	--	--	--	---------------------	--	--

10～ 11	5	「読書発表会」をしよう	<p>△紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」で発表する。△紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」をし、読書の幅を広げる。△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。</p> <p>⇒知技(1)カ△文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。⇒知技(1)ク△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒◎知技(3)オ□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ□文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ□学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して、読書の幅を広げ合う。</p>	1～3	<p>○「読書発表会」でテーマにそって本を紹介するといふ学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。1. 紹介したい本を選び、「読書発表会」の準備をする。(1) 発表のテーマにそった本を集める。</p> <p>(2) 紹介する本の順番を決め、組み立てメモをもとに、発表内容を考える。</p> <p>(3) 発表の練習をする。</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ)◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ)【態度】積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、学習の見通しをもって、「読書発表会」で本を紹介しようとしている。</p>
				4・5	2. 「読書発表会」をする。	

		<p>新スポーツを考えよう</p>	<p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)</p>	<p>1</p> <p>2・3</p> <p>4</p>	<p>○単元名やリード文を読み、役割を決めたり、進行に従って話したりする方法について話し合い、学習の見通しをもつ。</p> <p>(1) これまでのクラスの話し合いを振り返る。</p> <p>(2) これまでにどんなことを話し合ったか話し合う。</p> <p>決めよう・集めよう</p> <p>1. 誰と、どんな新スポーツをやりたいかを考える。</p> <p>(1) クラスで話し合う新スポーツについて決める。</p> <p>組み立てよう</p> <p>2. 役割を決め、進行について打ち合わせをする。</p> <p>(1) 話し合いの仕方や結果などのよかった点・問題点などを話し合う。</p> <p>*シナリオ会議やロールプレイを行う。</p> <p>話そう・聞こう(重点)</p> <p>3. 役割に気をつけて、クラスで話し合う。</p> <p>(1) 教科書を読み、夏川さんのクラスの例をもとに学習の流れをつかむ。</p> <p>伝え合おう</p> <p>4. 話し合いを振り返る。</p> <p>(1) 夏川さんのクラスの話し合いをもう一度読み、どこがよいのか発表し、役割ごとの留意点を確認する。</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕A才)</p> <p>【態度】積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果</p>
--	--	-------------------	--	------------------------------	--	---

			<p>オ</p> <p>◇グループや学級全体での話し合いなど、考えを伝え合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ</p> <p>☆総合的な学習の時間・特別活動など：司会者や提案者・記録者などの役割を知り、分担して話し合いを進める。合意形成の仕方を学ぶことに生かせる。</p>	<p>5～7</p> <p>(2) 学級会（2回め）を行い、振り返りをして、次の準備を行う。</p> <p>(3) 学級会（3回め）を行い、振り返りをする。</p> <p>8</p> <p>(4) 自分たちの話し合いについて気になる点に注意できたか、友達の意見と自分の意見をつないだり、比べたりして話し合えたか、ノートに書いて発表し合う。</p> <p>○今後のクラスでの話し合いについて考える。</p>	<p>たし、学習の見通しをもってクラスで話し合おうとしている。</p>	
11	2	漢字の広場 ④ いろいろな意味を表す漢字	△一つの漢字には、複数の意味がある場合が多いことを理解する。	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の

			<p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p>	<p>1. 「手」という漢字がもつ複数の意味について考える。</p> <p>2. 「手」の五つの意味別に、語句を集め、話し合う。</p> <p>3. 選択肢のそれぞれの言葉の意味を考え、「本」「親」「名」「原」という漢字がもつ複数の意味と比べる。</p> <p>4. 漢字辞典を使って、「長」「家」「札」がもつ複数の意味を調べる。</p> <p>5. 漢字辞典を使って、これまでに学習した漢字がもつ複数の意味を整理し、意味別に熟語を集め、ノートにまとめる。</p>	<p>中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。</p>
2 (書く2)	漢字の広場 ④ 三年生で学んだ漢字 ④	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p>	<p>3・4</p> <p>6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。</p> <p>7. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、</p>	

			<p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>		<p>8. 作った文を互いに発表し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。</p>
11～12	9(書く2)	三 大事な言葉や文に気をつけて要約しよう	<p>□ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館の取り組みを時系列に沿って読み、興味をもった点から整理して文章を要約する。</p>			
		ウミガメの命をつなぐ	<p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報</p>	1～5	<p>○単元名や二枚の写真を手がかりに学習の見通しをもつ。</p> <p>確かめよう</p> <p>1. 名古屋港水族館が取り組んだ二つの研究の経過を読み、時系列に沿って整理する。</p> <p>(1) 題名や写真・図を見て、考えたことを話し合う。</p> <p>*話題は何か</p> <p>*筆者が伝えたいことはどんなことだと思うか</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っ</p>

		<p>を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>□段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>	<p>(2) 名古屋港水族館が取り組んだ二つのウミガメの研究を時系列に沿って整理する。</p> <p>*どんな研究をしたか</p> <p>*いつ・どんなことがあったか。</p> <p>*明らかになったことや残った問題は何か。</p> <p>6・7 考えよう</p> <p>2. 興味をもったことを中心に文章を要約する。</p> <p>(1) p.54 に示されている三つの例を参考にしながら、興味をもったことを明確にする。</p> <p>(2) 興味をもったことを中心に大事な言葉や文を書き出す。</p> <p>(3) 書き出した大事な言葉や文をもとに、興味をもったことを中心にして、『ウミガメの命をつなぐ』を要約する。</p> <p>8 深めよう</p> <p>3. 2. (3)で作った「要約」を取り入れて、『ウミガメの命をつなぐ』を読んで興味をもったことを紹介する文章を書く。</p>	<p>ている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>【態度】積極的に、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、学習の見通しをもって、本教材の紹介文を書こうとしている。</p>
--	--	---	---	--

				9	<p>広げよう</p> <p>4. それぞれがどんなことに興味をもったかに気をつけながら、『ウミガメの命をつなぐ』の紹介文を読み合う。</p> <p>(1) 文章を読んで興味をもったことを発表したり、グループで話し合ったりする。</p> <p>(2) 友達の紹介文のよいところを見つけ、伝え合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	
12	2	二つのことがらをつなぐ	<p>△二つの事柄をつなぐとき、使う言葉によって内容が大きく変わることを理解し、接続語のはたらきを意識して、正しく使い分ける。</p> <p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p>	1	<p>○冒頭の問いを通して、二つの事柄をつなぐ言葉について興味をもつ。</p> <p>1. 教科書を読み、二つの事柄をつなぐ言葉（接続詞や接続助詞）のはたらきを理解する。</p> <p>2. 接続助詞と接続詞の対応を考えながら1文を2文に分ける。</p>	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 (〔知識及び技能〕(1)カ)
				2	<p>3. 接続助詞の意味を考えながら、後に続く文を考える。</p> <p>4. つなぐ言葉に注意しながら2文を1文にする。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	【態度】進んで接続する語句の役割について理解し、学習の見通しをもって、接続語のはたらきを意識して正しく使い分けようとしている。

12	6(書く 6)	四 調べたことをわかりやすく書こう	<p>■図や写真などの資料を活用し、紙面を工夫して図鑑を作る。</p>			
		「不思議ずかん」を作ろう	<p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。</p> <p>⇒知技(1)ウ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文</p>	<p>1 ○教科書の作品例を読み、秋山さんが工夫していることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名の工夫 ・書き出しの工夫 ・写真や図表の工夫 <p>・「ひと言葉メッセージ」や「参考資料」を書き加えている 等</p> <p>○「学習の進め方」を読み、学習活動の見通しをもつ。</p> <p>2・3 決めよう・集めよう(重点)</p> <p>1. 図鑑に載せるものを決め、調べる。</p> <p>(1) 身のまわりの不思議を集め、書きたいことを選ぶ。</p> <p>(2) 題材について取材する。</p> <p>組み立てよう</p> <p>2. 組み立て表を作り、グループで話し合う。</p> <p>4 ○できた組み立て表をグループの友達と交換して読み、意見を伝え合う。</p> <p>5 書こう・読み返そう(重点)</p> <p>3. 図鑑の原稿を書き、読み返す。</p> <p>6 伝え合おう</p> <p>4. グループで発表し合う。</p> <p>○表紙や目次をつけて、図鑑を作る。</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や</p>	

			<p>章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>		<p>○学習を振り返る。</p>	<p>文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ）</p> <p>【態度】積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。</p>
12	4 (書く1)	<p>故事成語</p> <p>△故事成語の意味を知り、友達に紹介するためのカードを作る。</p> <p>△長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり、我が国の伝統や文化に目を向けたりする。</p>	<p>1 1. 教材文を読んで、知っている故事成語について話し合う。</p> <p>2 2. 教科書p.71に例示されている故事成語について、辞典を使って意味と成り立ちを調べる。</p> <p>3 3. 故事成語を集めて、もともとなった故事や意味を、辞典を使って調べ、カードに書き、互いに交流する。</p>	<p>◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。（〔知識及び技能〕(3)イ）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>【態度】積極的に、長い間使われてきた故事成語の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。</p>		

				4	4.好きなカードを選び、それぞれの故事成語の意味として書かれた場面(意味)を、これまでの自分の経験や生活の中の一場面だとする簡単な文を書き、発表する。 ○学習を振り返る。	
1	2	詩を楽しもういろいろな詩 おおきな木 とびばこ だんだん	□さまざまな形の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。△文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。⇒◎知技(1)ク△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒◎思判表C(1)オ□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ	1・2	1.『いろいろな詩』(1)それぞれの詩を読み、感じたことを発表し合う。(2)それぞれの詩の題名から、どのようなことを思い浮かべるかを考える。 2.『おおきな木』 (1)詩を音読し、内容を把握する。 (2)詩に見られる工夫を考える。 3.『とびばこ だんだん』 (1)言葉の重なりや繰り返しに気をつけて音読する。 (2)なぜ、とびばこが「かいぶつ」に見えたのかを考える。 4.気に入った詩の形式と同じような詩を考え、発表し合う。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(【知識及び技能】(1)ク)◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ)◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ)【態度】進んで、詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えもち、学習の見通しをもって発表し合おうとしている。

1	2	漢字の広場 ⑤ 熟語のでき方	<p>△二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p>	<p>1 ○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 「高温」「寒冷」「苦楽」という言葉にある二つの漢字の意味のつながりを考える。</p> <p>2. 「熟語」の定義を知り、漢字の意味を考え、熟語の構成について理解する。</p> <p>3. 「良薬」を例に「上の漢字が下の漢字を修飾する熟語」について考える。</p> <p>4. 「お祝いの日」「清らかな流れ」という意味表す熟語を考え、話し合う。</p> <p>2 5. 「思考」「前後」を例に、「意味のうえでつながりのある漢字がならぶ熟語」について考える。</p> <p>6. 「似た意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり、集めてノートにまとめたりする。</p> <p>7. 「反対の意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり、集めてノートにまとめたりする。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。</p>
---	---	-------------------	--	--	--

				8. 国語辞典や漢字辞典を使い、集めた熟語の意味を調べる。	
2(書く 2)	漢字の広場 ⑤三年生で学んだ漢字 ⑤	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	3・4	9. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 10. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 11. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
1～2	15(話す 聞く9, 書く1)	五 自分の経験と結びつけて考えよう	◇「便利だな」と思うものを思い浮かべ、その理由から自分にとっての「便利」とはどういうことか話し合う。		

1	1 (話す聞く1)	身のまわりの「便利」なものを考えよう	<p>◇身のまわりの道具や設備などから「便利」なものを選び、使いやすくなる工夫を考えて話し合う。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア</p> <p>◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)オ</p> <p>◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ</p>	1	<p>○便利なものについて考え、学習の見通しをもつ。</p> <p>決めよう・集めよう(重点)</p> <p>1. 身のまわりにある便利なものについて考える。</p> <p>(1) 自分が便利と思うものをあげ、その理由を考える。</p> <p>(2) 便利と思うものとその理由について、友達と話し合う。</p> <p>(3) 「便利」とはどのようなものかを考える。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア)</p> <p>【態度】進んで、目的を意識して日常生活の中から集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって、クラス全体やグループで話し合おうとしている。</p>
	6 (書く1)	「便利」ということ	<p>□「便利」とはどういうことかを考えながら読み、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指</p>	2	<p>○単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>確かめよう</p> <p>1. 全文の範読を聞き、興味をもったことを書く。</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕</p>

示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ

△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア

△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ

△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ

■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ

■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ

■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ

□段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア

□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ⇒思判表C(1)ウ

□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ

□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、

3 考えよう

2. 文章に示されたさまざまな道具や設備から「便利」さについて考えるとともに、それらの例をもとに筆者が伝えようとしていることを話し合う。

(1) p. 90 に示された三つの道具や設備について、誰にとって「便利」であるか、文章から考え、ノートにまとめる。

4・5

(2) 筆者が伝えようとしていることを考え、話し合う。

6 深めよう

3. 文章と、自分で感じた「便利」「不便」という経験を結びつけて、改めて「便利」について考える。

(1) 「見たこと・聞いたこと・したこと」など、自分の経験から「便利」だと感じた道具や設備を思い浮かべる。

(2) 自分が決めた題材について、文章中の言葉や文を引用しながら考える。

(3) 「便利」について自分が考えたことを文章で書く。文章の中からその題材の「便利」さを裏付ける言葉や文を探す。

(2)ア)

◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)

◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ)

【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)

◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)

			<p>一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表(2)ウ</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p> <p>□学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ</p> <p>☆道徳：本文の読みを通して「便利」について考え、相手のことを思いやり、助け合うことへの見方を深める。</p>		<p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ）</p> <p>【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、「便利」について考えたことを文章にまとめようとしている。</p>
				<p>7 広げよう</p> <p>4. グループで文章を読み合い、感想を話し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	
1~2	8(話す 聞く8)	調べてわかったことを発表しよう	◇調べたことについて、写真や図、表やグラフなどを使って説明したり、話の中心に気をつけて聞いたりする。△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ	8	<p>○単元名やリード文を読み、資料を効果的に活用して発表する方法について話し合い、学習の見通しをもつ。</p> <p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っ</p>

			<p>△考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア△比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ☆社会科・理科・総合的な学習の時間など：調べたことや観察したことをポスターを使って効果的に発表する。</p>	<p>9・10 決めよう・集めよう</p> <p>1. 調べることを決め，資料を集める。</p> <p>(1) 教科書を読んで全体の流れを確認する。</p> <p>(2) 学習計画を立て，テーマやグループを決める。</p> <p>(3) 調べる方法を考える。</p> <p>(4) テーマにそって調べる。</p> <p>11・ 組み立てよう</p> <p>12 2. 発表の組み立てを考えて，練習する。</p> <p>*声の大きさ，間，強弱などの観点をはっきりさせて練習する。</p> <p>*発表したら助言を行う。</p> <p>*練習後には資料の効果について確認する。</p> <p>13・ 話そう・聞こう(重点)</p> <p>14 3. 資料を使って発表会をする。</p> <p>(1) 発表するときと聞くときの大事なことを確認し，発表会を行う。</p> <p>15 伝え合おう</p> <p>4. 質問や感想を伝える。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>ている。(〔知識及び技能〕(2)イ)◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。(〔思考力，判断力，表現力等〕Aウ)【態度】積極的に，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫し，見通しをもって調べたことを発表し合おうとしている。</p>
2	2	点(，)を打つところ	<p>△読点のはたらきを理解して，正しく使い分ける。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第3学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ</p>	<p>1 ○学習内容を理解し，日常化への見通しをもつ。</p> <p>1. 「ここではきものを～」 「姉がうれしそうに～」の二つの例文を読み，読点のはたらきや読点の必要性について話し合う。</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p>

			<p>字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。</p> <p>⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p>	<p>2. 二つの例文に読点を打ち、意味がどう変わるのか確かめる。</p> <p>3. 読点の打ち方の原則を理解する。</p> <p>2 4. 「点を打つ場所」に気をつけて、p.102・103の設問に取り組む。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>【態度】進んで句読点のはたらきを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で適切に使おうとしている。</p>
2	9(書く9)	六 伝えたいことをはっきりさせて書こう	■様子がわかるように、よりよい表現を選んで書く。		
		自分の成長をふり返って	<p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。</p> <p>⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など</p>	<p>1</p> <p>○教科書の作品例を読み、羽田さんが工夫していることを確認する。</p> <p>*題名の工夫</p> <p>*書き出しの工夫</p> <p>*会話文の工夫</p> <p>*構成の工夫「始め」「中」「終わり」</p> <p>*いちばん書きたかったこと等</p> <p>○「学習の進め方」を読んで学習の流れを知り、見通しをもつ。</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役</p>

情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知
技(2)ア

■相手や目的を意識して、経験したことや想像した
ことなどから書くことを選び、集めた材料を比較し
たり分類したりして、伝えたいことを明確にするこ
と。 ⇒思判表B(1)ア

■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段
落をつくったり、段落相互の関係に注意したりし
て、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ

■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を
明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思
判表B(1)ウ

■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現に
なっているかを確かめたりして、文や文章を整える
こと。 ⇒◎思判表B(1)エ

■書こうとしたことが明確になっているかなど、文
章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよ
いところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ

■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれ
を基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア

- 2 **決めよう・集めよう**
1. 自分の成長を感じたできごとを思い出し、書くこ
とを決める。
- 3・4 **組み立てよう**
2. 組み立て表を書き、友達と意見を交換する。
- 友達からもらった意見を参考にして、組み立て表
を見直し、書く内容を考え直す。
- 5～7 **書こう(重点)**
3. 文章を書く。
- 8 **読み返そう(重点)**
4. 文章を読み返す。

割、段落の役割について理解し
ている。(〔知識及び技能〕(1)
カ)

◎【思判表】「書くこと」にお
いて、自分の考えとそれを支え
る理由や事例との関係を明確に
して、書き表し方を工夫してい
る。(〔思考力、判断力、表現
力等〕Bウ)

◎【思判表】「書くこと」にお
いて、間違いを正したり、相手
や目的を意識した表現になっ
ているかを確かめたりして、文や
文章を整えている。(〔思考
力、判断力、表現力等〕Bエ)

◎【思判表】「書くこと」にお
いて、書こうとしたことが明確
になっているかなど、文章に対
する感想や意見を伝え合い、自
分の文章のよいところを見付け
ている。(〔思考力、判断力、
表現力等〕Bオ)

【態度】積極的に、書こうとし
たことが明確になっているかな

				<p>9 伝え合おう（重点）</p> <p>5. 文章を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○友達の子どものよかったところを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体で確認する。 ・出てきた点について、自分の作品を読み直す。 	<p>ど文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見直しをもつて、よりよい表現を選んで文章を書こうとしている。</p>
2	1 (書く1)	雪	<p>△「雪」を扱った言語表現を集める。</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>1</p> <p>1. 教科書の文章から「雪」を使った表現や歌を知り、声に出して読む。</p> <p>2. 「雪」に関する歌や言葉を辞典などを使って調べて、ノートに書く。</p>	<p>◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(〔知識及び技能〕(3)イ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】進んで、長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味を知ろうとし、学習の見直しをもつて「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。</p>

2	2	漢字の広場 ⑥同じ読み方の漢字の使い分け	<p>△異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって、漢字を読んだり書いたりする。△漢字と仮名を用いた表記, 送り仮名の付け方, 改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに, 句読点を適切に打つこと。また, 第3学年においては, 日常使われている簡単な単語について, ローマ字で表記されたものを読み, ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ△</p> <p>第3学年及び第4学年の各学年においては, 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また, 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 当該学年に配当されている漢字を漸次書き, 文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ△比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使うこと。</p> <p>⇒知技(2)イ</p>	<p>1 ○学習内容を理解し, 学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 「はやい」「なく」「かわる」を例に, 場面の様子や意味をもとに同じ訓の漢字の使い分けについて考える。</p> <p>2. 「以外・意外」「機械・機会」を例に, 同じ音の漢字の使い分けについて, 熟語の意味をもとに考え, 話し合う。</p> <p>3. 同じ訓の言葉(異字同訓)や同じ音の熟語(同音異義語)のそれぞれの意味を国語辞典で調べて, 短文を作り, 漢字の使い分けについて話し合う。</p> <p>2 4. 同じ読み方の漢字の使い分けについては, 別の言葉に言いかえて考えるという方法を知る。</p> <p>5. 別の言葉に言いかえる方法を使い, p. 113 下段の設問を解き, それぞれの言葉の違いを国語辞典で確認する。</p> <p>6. 異字同訓や同音異義語を使った短文を作り, それぞれの意味の違いを話し合う。</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記, 送り仮名の付け方, 改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに, 句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕)</p> <p>(1)ウ【態度】進んで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し, 学習課題に沿って, 文や文章の中で正しく使おうとしている。</p>
---	---	----------------------	---	--	---

	2 (書く2)	漢字の広場 ⑥ 三年生で学んだ漢字 ⑥	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	3・4	<p>7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。</p> <p>8. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。</p> <p>9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、お話の一場面を書こうとしている。</p>
3	8(書く2)	七 場面のうつり変わりと、登場人物の気持ちの変化を読もう	□登場人物の考え方の違いや、その移り変わりを考えながら読み、気に入った場面を物語のように書きかえる。			

木竜うるし（人形げき）

△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ

△文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒知技(1)ク

△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ

■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ

■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ

■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ

□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ

□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ

□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ

□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒◎思判表C(1)カ

1 ○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。

確かめよう

1. 全文の範読を聞き、あらすじを確かめる。

- ・登場人物、できごとを確認する。
- ・登場人物について思ったことを書く。

(1) 「一」の場面「深いふちのそば」を読み、権八と藤六の性格について話し合う。

(2) グループで役を決めて「一」の場面を音読する。

(3) 全体を読み、それぞれの場面でどのようなできごとが起きたかをまとめる。

2 **考えよう**

2. 『木竜うるし』を読んで、権八の気持ちの移り変わりを捉える。

3・4 ○権八の考えや気持ちは少しずつ変化していく。それがわかるせりふと、変わったわけを、ノートにまとめる。

◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。

(〔知識及び技能〕(1)イ)

【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)

◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)

◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ)

【態度】積極的に、文章を読ん

			<p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。</p>	<p>5・6 深めよう</p> <p>3. 権八の気持ちが変わったのはなぜかを話し合い、考えをノートなどにまとめて書く。</p> <p>7・8 広げよう</p> <p>4. 気に入った場面を選び、物語の文章に書きかえる。物語の文章と脚本との違いを話し合う。</p>	<p>で理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見直しをもって、脚本を物語のように書きかえようとしている。</p>
3	2 (話す聞く1, 書く1)	国語の学習 これまで から	<p>◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知</p>	<p>1</p> <p>1. 一年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。</p>	<p>◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 (〔知識及び技能〕(1)イ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚</p>

		<p>技(2)ア</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p> <p>■記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	2	<p>2. 五年生になったら1. で出し合ったことがどのように広がっていくのか、想像したり希望を出し合ったりする。</p>	<p>や強弱、間の取り方などを工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、1年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。</p>
--	--	--	---	---	--